



特定非営利活動法人 なんとなくのひろば 通信

URL <http://www.nantonakuno.net/>

Mail info@nantonakuno.net

第16回 通常総会 開催 (5/9)

5月9日(土)午後1時より、日光市民活動支援センターを会場として、第16回通常総会を開きました。会員のみなさまに集まっていたいただき、当会の運営を議論する場として総会が行われるのが本来の姿ですが、今回は新型コロナウイルス(COVID-19)の影響により、多人数集まるとの開催が難しくなっていました。そこで総会案内とともに総会資料(議案書)を送付し、内容確認のうえ委任をいただくという形で総会を実施しました。事業報告および計画についての意見は返信用はがき、またはメールにて受け付けました。総会は予定どおりに始まり、正会員数:52名のところ、出席会員数:36名(うち表決委任者26名)により総会の成立(正会員総数の2分の1以上の出席)が確認されました。「2019年度事業報告・収支決算」および「2020年度事業計画案・予算案」についての会員からの質問、返信はがきによる疑義は無く、全議案は出席者全員により承認され、「非常事態」の中での総会を終えました。会員のみなさまのご協力に感謝します。承認いただいた本年度事業計画の概要を以下にお知らせします。

■ 事業計画

(1) 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営 予算:2,590,000円
子どもの居場所はこれまでどおり、月～金曜日、12:30～16:30に開いています。4、5月の小中学校休校期間中は、居場所に登録中・登録予定の子どもたちに限り、体調に注意しながら受け入れてきました。6月以降は新たな参加の問い合わせもあり、手続きを進めています。今年度は小中学校の夏休みが8月1日～16日です。8月第1週目は居場所を開き、居場所夏休みは8月8日(土)から16日(日)まで、それ以降はいつもと同じ日程になります。



ミニトマト、キュウリ、今年も元気に育っています。

居場所活動には、カードゲーム、ボードゲームなどを取り入れ、参加者間のやり取りを重視しています。音楽に興味を持つ子どもも増え、ギターやウクレレなど楽器の整備を行っています。個別学習援助の充実にも力を入れます。楽しい食事会「つくって食べよう」はしばらくお休みしていましたが、感染に注意しながら始めてみようかと相談中です。

(2) 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発 予算:140,000円

学びサポートひろば 毎週金曜日 19:00～21:00、市民活動支援センターを会場とし、その子に応じた学習サポートをめざして、毎週金曜日に開いています。現在は中学生2名が参加しています。

(3) インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援および情報提供 予算:106,000円

ホームページによる活動紹介、情報提供を行っています。加えて、オンライン会議の参加および開催、いままでなかなか手が出せなかった活動紹介動画、教材画像・動画などの作成に向けて準備を始めました。

(4) 教育や福祉についての相談、情報提供および障がいの理解および啓発に関する企画運営事業 予算:25,000円

昨年度は延べ相談数64件、見学者25人でした。オンライン相談など、より気軽に相談していただけるような対応とシステム整備を行います。会報は年4回、4、7、10、1月に発行予定です。今年度も、毎回250部を印刷し、会員、市内の小中学校、関連機関に配布します。(次ページに続く)

目次

第16回 通常総会 開催	1
Zoom でミニ講話	2
じゃがいも植え付け・収穫	3
活動報告	3
こんな本はいかが・50	4

居場所のひとこま

「居場所ですってくださーい」といただいた、機織り(はたおり)機です。ためしにスタッフMさんが織ってみた作品(下写真)を見た小学生が「わたしも織りたい」と製作中。だいぶできあがっている様子を紹介したいのですが、完成まで写真はダメ、「ヒミツ」とのこと。どんな模様の布ができていますかは次号のお楽しみです。(N)



(5) 学校外で育つ青少年や障がいのある人の自立に関する相談および就労を支援する活動 予算:30,000円

本年2月はじめ、就職に向けた準備の場の見学会を実施。宇都宮市にある就労移行支援事業所「ディンクル」、「ウェルビー」を6名で見学しました。子どもたちが自分の進路を考え、就労に向けての支援制度を知るよい機会となりました。見学などのお出かけが難しい時期ですが、必要なときに工夫しての実施を検討します。月1回のベリー会への参加により、関連団体との連携を行っています。

(6) 自然環境の中での学び、自然環境保全の啓発活動 自然観察、畑作り、川遊び等。環境研究班による放射能・放射線測定・啓発活動 予算:42,000円

毎年、「今市の水を守る市民の会」と共同で実施している「川むしたんけん隊」はお休みすることになりました。放射能・放射線測定は随時行っています。結果は通信やホームページで報告します。

(7) 障がいの理解および啓発に関する企画運営

子育て・親育ち勉強会や茶話会の実施。 予算:70,000円
「茶話会」は毎月第2月曜日、午前10時からお昼までの日程で、平ヶ崎の「居場所」で開いています。子育ての悩みをお持ちの方、ぜひご参加ください。

(8) 第二種社会福祉事業の相談支援事業の経営

特定指定相談支援事業(さくらそう) 予算:3,165,000円
さくらそうは8年目を迎えました。昨年度は130名ほどの計画作成・モニタリングを延べ215件実施しました。放課後等デイサービス・居宅介護・同行援護(視覚障がい者への移動支援)・就労への福祉サービスにお繋ぎする支援が主でした。また利用者が65歳を迎えられて介護保険への移行が数件あり、地域包括支援センターとの連携を行いました。また、引き続き他団体や個人に向け、当法人の居場所

事業や茶話会、学びサポートを紹介する機会がありました。一方、担当人数が増えサービスにお繋ぎするだけで手一杯になり、その後のお声掛け(モニタリング)が手薄になっていることが心苦しい状況です。

相談支援事業(兼原理事の市役所出向) 予算:6,009,240円
2014年5月から市役所1階社会福祉課「日光市障がい者相談支援センター」に兼原が出向しています。ここ数年は、年間延べ1000人を超える障がい者等からの相談を受け、支援内容も訪問・来所・電話の他、通院同行や高校卒業後の進路等、多岐にわたる支援を行っています。「医療的ケア児等コーディネーター養成研修」「発達障害者相談支援サポーター養成研修」を受講し、県内の相談支援専門員の心強い仲間がたくさん増えました。新年度は「障がい児支援実務者会議の副班長」に任命されました。仲間にも助けをもらいながら頑張りたいと思います。

以上が第16回総会で審議され、出席者一同の承認をいただいた今年度事業の概要です。今回、役員の変更はありません。引き続き、理事9名、監事1名の体制となります。予算の詳細については[ホームページ]→[財務諸表]中の総会資料をご覧ください。今年度もみなさまのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。(手塚)

子育て・親育ちの茶話会

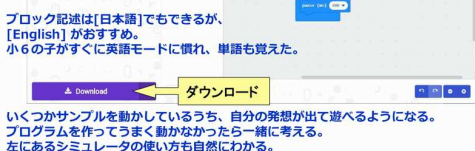
場所：子どもの居場所(日光市平ヶ崎)
日時：毎月第2月曜日(午前10時~12時)
次回の予定は電話でお問い合わせください。
参加費：300円(お茶代)

同じ悩みを持つ親御さん同士、気持ちを許し合って、情報や悩みを分かち合いましょ。 「一人で悩まず、みんなで！」を合い言葉に。(Tel:090-3227-7079)

Zoom でミニ講話

6月にK小中学校の先生方向けにZoomを使ったミニ講話を行いました。昨年の暮れごろIT仲間と連絡を取り合うために始めた程度の経験で、それほどZoomを使い慣れているわけでもありません。依頼があつてから、さてどうしようかと考えました。時間は10~15分くらいとのことなので、本通信で何度か紹介し、居場所で今もブームの **micro:bit** という超小型・安価なボードコンピュータとそのプログラミングを紹介することにしました。

スライドを4枚ほど作り、居場所のスタッフ相手に数回練習。そこで気付いたのは、話者の姿を映すカメラ画像とPC画像とを効果的にスイッチし、話を進めることが大切、ということでした。



プレゼン資料(静止画)とリモコンロボット(居場所スタッフ 福田さん製

作、**micro:bit** 2台の通信機能を応用)の動画をデスクトップに置き、スタンバイ状態にして、話を始めました。慣れない操作で冷や汗ものでしたが、「あ、こういうふうに使えるのか」と納得することもいくつかあり、私自身の勉強にもなりました。

micro:bitのプログラム作りはプロの技術屋さんが組込みシステムの開発に使っている手法と同じです。Webベースのエディタでプログラムを書き、機械語にまとめたファイルをUSB経由で基板に転送して実行。以前はとても煩雑だった不揮発性メモリへの書き込みと実行が、手軽に体験できます。

左図は「プログラム体験・第一歩」といった画面。**micro:bit**の「プログラム開発環境」を使っているところです。ここには各国の言語版が用意され、もちろん「日本語」もありますが、「English」がおすすめです。プログラム言語はもともと英語的な構文を持っています。システムが用意したブロックを組み立てるプログラミングは「日本語」がわかりやすそう。でも、ちょっと先に進むとJavaScriptやPythonなどの言語への拡張が必要になります。開発環境も一部は未翻訳で突然英語画面になったりするので、むしろ[English]に慣れてしまった方がよいかと...

「**micro:bit** 第一歩」、興味を持たれた方はご連絡ください。今回の「ミニ講話+α」(拡張版)を考え中です。(手塚)

☆ 活動日誌

- 4月22日(金) 通信「なんとなくのひろば・第59号」発行
- 4月25日(土) とちぎ教育ネットワークの会議
- 5月1日(金) 市内小中学校臨時休校・5月31日まで延長
- 5月7日(木) 理事会(第95回)
- 5月9日(土) 第16回通常総会(市民活動支援センター)
- 5月11日(月) 日光市役所(地域振興課)へ事業報告書等提出
- 5月23日(土) とちぎ教育ネットワークの会議
- 6月8日(月) 茶話会(第99回)
- 6月17日(水) 居場所より栗山小中学校へZoom接続。micro:bitについてミニ講話
- 6月27日(土) とちぎ教育ネットワークの会議
- 6月28日(日) ベリー会 月例会
- 7月7日(火) 理事会(第96回)



夏になったのにマスク！
マスクは苦手、つい話に夢中になると外してしまう子も。居場所にはこんなポスターがあちこちにありました。

お知らせ:「子どもの居場所」の夏休み:8月8日(土)~16日(日)です。

ジャガイモ植え付け・収穫 アルバム



4月16日、ジャガイモの植え付けをしました。居場所から少し奥に入った大家さんの畑。種芋を提供していただき、植え方も教えていただきました。(上写真・左)
畑を耕し、畝を作りながら種芋と肥料を置いていきます。鋤を持っているのは、昨年度からスタッフとして参加している福田尚史さん。(上写真・右)

5月になると芽が出てどんどん育ち、土中の茎に養分が蓄えられてジャガイモができます。茎があまり増えてしまうと栄養が分散してしまうので、茎の数を減らす「芽かき」という作業をします。時期は「芽が10cmくらい」。様子を見ながら、子どもたちとスタッフで行いました。



6月はじめから中旬くらいの間にジャガイモの花を見ることができます。左の写真は2年前(2018年)の6月8日、同じ畑で撮影した花です。

さて、7月は収穫の月です。今年の梅雨は例年に増してはじめ。「どうしようかな」という日が続きました。植え付けからちょうど3か月の7月16日、雨が上がったので収穫決行。

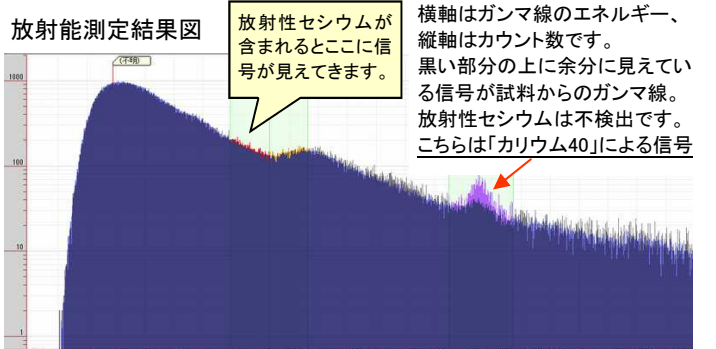


地上の茎はほとんど枯れています。畝におおいかぶさった雑草を抜き、みんなでイモを探しました。



1畝だけ、ちょっと珍しい紫のジャガイモを植えました。この日に収穫したのでさっそくゆでて試食会となりました。16日(木)は2畝、17日(金)も2畝、残りの1畝は20日(月)に収穫し、たくさんジャガイモが居場所の台所に並びました。風をあてて表面を乾かし、土を払えば長期間保存できます。

ジャガイモは土の中で大きくなります。気になるのは放射性セシウム。今でも日光周辺の乾燥表土1kgには少なくとも数百ベクレルの福島原発由来の放射性セシウムが含まれています。ジャガイモに移行しないか心配。環境研究班の放射能測定器で測った結果、今年も「不検出」でした。天然のカリウム40は130ベクレル/kg。標準的な値です。安心して「つくって食べよう」でいただきましょう。(T)



特定非営利活動法人 なんとなくのにな通信

〒321-1261 栃木県日光市今市378

電話 090-3227-7079 / email: info@nantonakuno.net

ホームページ <http://www.nantonakuno.net/>



私たちの活動目的：

日光市とその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して、学習や自立のための支援活動と地域への啓発活動を行い、社会に出た後も継続性のある、支援と学びの場を作り出します。

私たちの事業：

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、自然環境保全の大切さを啓発する活動
- ⑦ 障がいの理解および啓発に関する企画運営事業
- ⑧ 第二種社会福祉事業の相談支援事業経営

7月からの居場所利用

日光市内の小中学校は6月より再開されましたが、新型コロナウイルス感染の広がりについてはまだ安心できない状況です。この状態が収束するまで、以下の点にご注意いただき、健康に配慮した居場所利用をお願いします。

- (1) 12時30分～16時30分まで居場所を開所します。
- (2) 来所前は体温測定および手洗いを行ってください。
- (3) 風邪の症状または発熱がみられるときは来所を見合わせていただくようお願いいたします。
- (4) マスクの持参と着用をお願いします。

「なんとなくのにな」への相談は、いままでどおり受け付けています。
電話またはメールでご連絡ください。

こんな本はいかが？ その50：梨木香歩さんの本

以前に梨木さんの代表作「西の魔女が死んだ」をこのコーナーで紹介しました。この作品は映像化もされ、DVDでも見られます。今回は、梨木香歩さんのエッセイ集を紹介します。

「やがて満ちてくる光の」 梨木香歩著 2019年 新潮社

偶然ある会報で「あの子はああい子なんです」という見出しの文を見つけました。この著者が小学生のころ、担任の先生が発した言葉でしたが、この著者にとっては忘れられない言葉になったそうです。

「やがて満ちてくる光の」の中に収録されている短い文章です。毎日本ばかり読んでいた著者は、テストのある日もさっさとテストをすませて、本に没頭していました。教室に外部のお客様が来て、担任に何か耳打ちをした後、担任が晴れやかな声で言った言葉がこれでした。著者は担任に丸ごと受け入れられていると感じたそうです。「丸ごと受け入れられる」ことの心地よさっていいですね。

「英雄にならなくても」の中に出てくる一節。ヘイトスピーチが吹き荒れる中で私たちは何ができるのか。身近で差別され苦しんでいる人がいたら、そっと微笑みかけて、そっと傍らに立ってあげること。「私たちは英雄にならなくても、ほんの少しの勇気で誰かを救うことができる。大きな流れに静かに抵抗することができる。」

独特の感性をもった梨木香歩さんのエッセイ集をちょっと手に取ってみてください。 (白井)

会員について

正会員：52
賛助会員：15
団体会員：4
入会金なし

年会費(一口)
正会員 3,000円

賛助会員
個人 5,000円
団体 10,000円



私たちの活動は会費と寄付金でまかなわれています。会員継続、応援をよろしくお願いいたします。会員は新たな事業の提案、会の事業の運営などに直接かかわることができます。みなさまの積極的な参加をお願いします。

なんとなくのへや

「NPOなんとなくのにな」もおかげさまで発足16年目を迎えました。本通信は今回で第60号です。年に4回の発行を続け15年が過ぎたこととなります■60は年齢でいうと還暦。数の世界ではふたつの素数59と61の間にあります。5と7、

11と13など差が2となる1組の素数を双子素数といい、その間の数は必ず6の倍数だそうです。双子素数が無数にあるかどうかは不明。知られている最大の双子素数は、 $2996863034895 \times 2^{1290000} \pm 1$ などなど Wikipediaで調べるとこんな話がたくさん出てきます■「60」の話はこれくらいにして、とにかく本編集後記も60回目です。郵送費の節約のため5月の通常総会通知とともに発送する年度初めの「4月号」から4,7,10,1月発行を(忘れてしまったりで、たまに1ヶ月ほど遅れることあり)続けています■記事の都合により、この欄は伸び縮みします。全原稿のレイアウトが終わり、残ったこの欄を埋めるために数日考え込むこともしばしば。やっとテーマを思いつき、書き始めるうちに以前書いたことを繰り返しているのではと不安になり、ホームページに置いてあるバックナンバー(*)をチェックしたり、昔読んだ本を探したり。今後もよろしくお付き合いください。(*) 本通信バックナンバーはネット検索[なんにわ通信]で。お時間のあるときにご覧ください。(T)